

公共交通及び環境シンポジウム

2021 in 九州

～地域交通を色々な視点から考える～

11/1(月)






10:00～配信開始


11/5(金)までの
期間限定

少子高齢化、モータリゼーションの進展による利用者の減少に加え、昨今の新型コロナウイルス感染症の影響やそれに伴うインバウンド需要の激減、また地域交通の担い手不足の問題など、地域交通の抱える問題は、多様化しており、それぞれが複雑に絡み合っています。多重構造化した交通に関する問題を解決するためには、地域交通を一面的に捉えるのではなく、様々な視点から立体的に捉えることが重要です。

そこで本シンポジウムは、6つの視点（①政策、②地域振興、③協働、④新技術、⑤環境、⑥観光）それぞれから地域交通に光を当てる基調講演、そして、6つの視点からなる光を重ね新たな化学反応を起こそうとするパネルディスカッションにより構成しています。

本シンポジウムを通じて、持続可能な地域公共交通の実現に向けた課題を共に感じて頂き、各地域における今後の取組の一助になれば幸いです。

プログラム	6つの視点	内容・出演者
開会挨拶		国土交通省 九州運輸局 局長 河原畑 徹
基調講演 90分 (15分×6名)	 政策	① 『地域のくらしを創る 持続可能な公共交通の実現に向けて』 国土交通省 総合政策局 地域交通課 課長 倉石 誠司 氏
	 地域振興	② 『コンパクト街区の必須 「おでかけ目的地」のための「おでかけ交通」』 (株)光タクシー 代表取締役 石橋 孝三 氏
	 協働	③ 『熊本の共同経営事業について』 共同経営推進室 室長 高田 晋 氏 (熊本都市バス(株) 代表取締役社長)
	 新技術	④ 『モビリティと新技術』 西日本鉄道(株) 自動車事業本部 未来モビリティ部 部長 田中 昭彦 氏
	 環境	⑤ 『環境にやさしい×小さな移動サービス＝グリスロ ～新たなモビリティの可能性～』 復建調査設計(株) 九州支社 総合計画課 課長 竹隈 史明 氏
	 観光	⑥ 『住んでよし、訪れてよしの視点から～地域と公共交通』 日本旅館協会 九州支部連合会 会長 桑野 和泉 氏
パネル ディスカッション 60分	<テーマ> 持続可能な地域公共交通を実現するために 【コーディネーター】 大分大学 経済学部門 教授 大井 尚司 氏 【パネリスト】 上記基調講演者6名 【アドバイザー】 国土交通省 九州運輸局 局長 河原畑 徹 国土交通省 九州地方整備局 建政部長 津森 洋介	
閉会挨拶		国土交通省 九州地方整備局 建政部長 津森 洋介

 事前に収録した映像をWeb配信します。

申込方法等 九州運輸局ホームページをご確認ください。(10月初旬掲載予定)

ホームページURL : <https://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/gyomu/kikaku/sinpo2021.html>

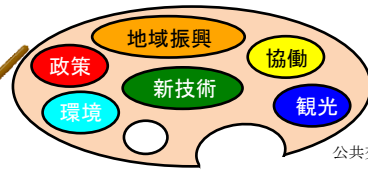
主催  国土交通省 九州運輸局・九州地方整備局

問合せ先 九州運輸局交通政策部交通企画課 TEL : 092-472-2315 E-mail : qst-kotsukikaku@gxb.mlit.go.jp



基調講演者 プロフィール

持続可能な 地域交通



公共交通利用促進キャラクター
のりたろう

倉石 誠司 氏 (くらいし せいじ)

政策

国土交通省 総合政策局 地域交通課 課長



島根県松江市出身。1999 年旧建設省入省後、道路局路政課長補佐、兵庫県警本部交通指導課長、京都府庁政策企画部戦略企画課長、大臣官房人事課企画官、不動産・建設経済局参事官（不動産管理業担当）などを歴任。公共交通部門を担当するのは初めて。様々な部局での幅広い経験と知見を活かし、自身のライフワークでもある「地域づくり・まちづくり」に、暮らしの満足度を第一に取り組んでいる。

様々な部局での幅広い経験と知見を活かし、自身のライフワークでもある「地域づくり・まちづくり」に、暮らしの満足度を第一に取り組んでいる。

石橋 孝三 氏 (いしばし こうぞう)

地域振興

株式会社光タクシー 代表取締役



福岡県北九州市出身。愛知学院大学在学中に北京科技大学に留学、激動の中国で 4 年間を過ごす。1998 年娘婿として株式会社光タクシーに入社、2000 年高齢化の進む枝光地区にて「やまさか乗合ジャンボタクシー」を発案・運行開始。

2004 年同社代表取締役就任。2019 年タクシー事業者を中心としたコミュニティ交通ネットワーク研究会「タクコミネット」の事業者副代表就任。

高田 晋 氏 (たかた すすむ)

協働

共同経営推進室 室長 (熊本都市バス株式会社 代表取締役社長)



1954 年 10 月 11 日生まれ
山口大学経済学部卒。1978 年熊本市役所入庁、都市建設局長、企画振興局長などを経て 2013 年副市長。2017 年退職。2018 年熊本都市バス社長。2020 年 4 月から共同経営準備室長を兼務 (2021 年 3 月より共同経営推進室に改称)

2021 年 3 月より共同経営推進室に改称

田中 昭彦 氏 (たなか あきひこ)

新技術

西日本鉄道株式会社 自動車事業本部 未来モビリティ部 部長



1969 年生まれ福岡県久留米市出身。1992 年西日本鉄道株式会社に入社、主に自動車事業 (バス) 部門で従事する。2000 年、筑豊自動車営業所に赴任し、法改正に伴う沿線自治体との地域バス生活路線の維持協議に取り組む。2007 年、バス部門の IT 推進室 IC 開発課長として交通系 IC カード「nimoca」のバス機器等のシステム開発を主導、その後の「nimoca」を通じた全国相互利用が可能な交通系 IC カードの普及に尽力。

2019 年、バス部門の未来モビリティ部長 (現職) に就任。三菱商事と西鉄が共同出資するネクスト・モビリティ株式会社代表取締役社長 (現職) を兼務し、AI オンデマンドバス・MaaS 等の新技術分野におけるモビリティサービスにチャレンジしている。

竹隈 史明 氏 (たけくま ふみあき)

環境

復建調査設計株式会社 九州支社 総合計画課 課長



熊本県熊本市出身。2003 年熊本大学大学院自然科学研究科修了。復建調査設計(株)に入社後、国土交通省や地方自治体の各種計画業務に携わり、近年では公共交通や新モビリティなどの交通計画の視点から九州地方を中心に各種まちづくりに従事。『グリーンスローモビリティ～小さな低速電動車が公共交通と地域を変える～ (三重野真代・交通エコロジー・モビリティ財団 編著)』の共著。

『グリーンスローモビリティ～小さな低速電動車が公共交通と地域を変える～ (三重野真代・交通エコロジー・モビリティ財団 編著)』の共著。

桑野 和泉 氏 (くわの いずみ)

観光

一般社団法人日本旅館協会 九州支部連合会 会長



1964 年大分県湯布院町 (現由布市) 生まれ。家業の宿「由布院玉の湯」の専務取締役を経て、2003 年より代表取締役社長。由布院温泉観光協会会長を 12 年勤め、現在は (一社) 由布市まちづくり観光局代表理事。九州旅客鉄道株式会社取締役 (非常勤)。道守大分会議代表世話人ほか、市民グループの代表、世話人も務める。

九州旅客鉄道株式会社取締役 (非常勤)。道守大分会議代表世話人ほか、市民グループの代表、世話人も務める。

パネルディスカッション コーディネーター プロフィール

大井 尚司 氏 (おおい ひさし)

大分大学 経済学部門 教授



福岡県北九州市出身。1996 年熊本大学法学部卒業後、旅行会社勤務を経て 2007 年神戸大学大学院経営学研究科博士後期課程修了、(一財) 運輸政策研究機構運輸政策研究所 (現・運輸総合研究所) 研究員を経て現職。専門は地域交通計画、交通経済、観光など。大分県をはじめ九州各地で地域公共交通の確保維持に携わるほか、研修講師なども多数歴任。2010 年から地域交通の勉強会「地域と交通をサポートするネットワーク in Kyushu (Q サポネット)」を運営 (代表)。